

大平整爾先生 やすらかにお眠りください



【略歴】

大平 整爾 (おおひら せいじ)

1937年12月9日生

1962年
北海道大学医学部卒業

1967年
医学博士号取得

1969-1971年
カナダトロント大学医学部・生理
学部研究員

1972-1997年
岩見沢市立総合病院外科及び透析
室部長

1972-2002年
日鋼記念病院院長

2002年以降
札幌北クリニック院長、顧問

日本透析医学会名誉会員

日本透析医会・理事

日本アクセス研究会・理事長

日本インターベンション研究会・
代表世話人

日本腎不全外科研究会・会長

日本サイコネフロロジー世話人

北海道高齢者透析研究会・会長

日本医工学治療学会・評議員

2003-2017年
日本透析医会理事

2003-2009年
日本透析医会副会長

2005-2017年
日本透析医会研修委員会委員長

長く日本透析医会に多大のご貢献を賜った大平整爾先生が平成29年9月5日、急逝されました。直前までいつものようにお元気で研究会の司会をおつとめであったとのこと、会員一同突然の悲報に驚愕し、また悲嘆にいております。

先生はご略歴にもありますように、単に日本透析医会のみならず、日本の透析医学を牽引されてこられた先駆者のお一人でした。日本透析医学会では、人工透析研究会としての発足以来9代目の理事長を務められ、その他、多くの関連学会、研究会の発足や運営に携わられ、そして会長、理事長など指導的な役割を演じてこられました。日本透析医会ではご逝去されるまでの15年間にわたり理事を務められ、平成15年から6年間は副会長を歴任され、山崎親雄会長を補佐されました。特筆すべきは研修委員会での活躍です。平成7年に委員に就任なさり、11年から副委員長、15年に担当理事、そして17年からは委員長としてその発展に尽くされました。現在の春、秋の研修セミナーを育成、定着させたのは、まさに先生のご指導によるものです。

先生は優れた外科医としてだけでなく、基幹病院長として卓越した能力を発揮され、その管理・運営能力は学会や研究会にも発揮されました。また、米軍病院でのインターンや海外留学のご経験から英語にもご堪能で、多くの国際学会で我が国の透析医療の成果を報告して下さいました。

バスキュラーアクセスガイドラインの取りまとめなど多くの外科的なお仕事以外に、先生は終末期の医療についても深い学識を有され、現在大きな問題となっている透析の見合わせについては、「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の作成に中心的な役割を果たされました。先生の「医療者側と患者側との共同の意思決定 (shared decision making)」についての最新の考え方は、絶筆となったメディカル・エッセイ「[説明と同意]と[自己決定(権)]に関わる小考察」(日透医誌2017; 32:371.)として我々に遺して下さいました。

大平先生は専門書以外に、その豊かな人間性を示す多くの書物を著わされました。「北国の外科医の独り言」と銘打ったシリーズ、その中で私にはとくに「思い出のカルテ」が印象的でしたし、「いかによく生きるか—命の選択—」も先生のお考えを的確に反映した秀逸な作品でした。先生はクラシック音楽にも造詣が深く、松本のサイトウキネンフェスティバルも度々楽しまれたと聞いております。

優れた医師としてだけでなく、広く・深い人間性を備えた大先輩を失った悲しみを乗り越え、医会会員一同、日本の透析医療の向上に尽くしていく所存です。先生の冥福を心よりお祈り申し上げます。大平先生、ありがとうございました。やすらかに眠りください。

平成29年10月

(日本透析医会会長 秋澤忠男)